



片柳中学校だよ

片柳

第7号 令和8年9月25日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

経験を学びに変える力

校長 佐久間 貴宏

9月13日、バレーボール男子アジア選手権決勝、日本代表男子チームがロサンゼルスオリンピックへの出場を決めました。最終予選決勝のイラン戦は3-0。そこに至るまでの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。

思い返せば、パリオリンピック準々決勝のイタリア戦。セットカウント2-0、第3セットも24-21と、あと1点で勝利という場面から逆転負けを喫しました。あの悔しさは、当時コートに立っていた選手たちの心に深く刻まれていることでしょう。しかし、その経験を「悔しかった」で終わらせず、なぜ負けたのか、何が足りなかったのか、次は何を変える必要があるのかを分析し、言葉にし、行動に移してきた。その積み重ねが、今回の「勝ち切る」3-0につながったのではないのでしょうか。

敗戦や失敗から学ぶことは、スポーツに限らず、私たちの成長にとって大きな意味をもちます。大切なのは、失敗しないことではありません。「なぜ、そうなったのか」「何が結果につながったのか」「次は何を変えればよいのか」と考え、改善し、再び挑戦することです。これは、本校が大切にしている非認知能力の一つ、自己調整力の核心でもあります。

2学期から、本校ではスキガクタイムとデザインタイムを全面的に見直しました。生徒一人ひとりが「なりたい自分」を見つめ、その実現に向けて計画し、実行し、振り返り、改善する。このサイクルを大切にしています。

例えば、「ボールをもっと強く、遠くへ投げたい」と思ったとき、腕の振り、体重移動、足の踏み出し方など、結果につながる要因を考え、どこを変えればよいのかを探ります。美術でも、「うまい」「色が美しい」という感覚を、なぜそう感じたのかと言葉にすることで、自分の表現を磨く新たな視点が生まれます。つまり、「できた」「できなかった」で終わるのではなく、「なぜできたのか」「なぜできなかったのか」と一歩深く考えることが、次の成長を生み出します。

さて、まもなく新人体育大会が始まります。運動部の皆さんは、夏から積み重ねてきた努力をいよいよ試す時を迎えます。胸が高鳴り、緊張もあることでしょう。しかし、その気持ちこそが、挑戦の証です。大切なのは、勝敗だけで終わらせないことです。大会までの準備はどうだったか、試合中の判断はどうだったか、自分の力を発揮できる場面をどうつくるか。そして、試合後には必ず「次は何を変えるのか」を考えること。大会そのものが、自己調整力を育てる大きな学びの場になります。

スキガクタイム、デザインタイムは、「なぜ？」を見つけ、その答えを探究する時間です。自分の好きなことだからこそ、面白さを感じながら深く考えることができます。経験を振り返り、原因を考え、改善し、次の一歩を自分で選ぶ。その積み重ねこそが、夢を実現する力になります。

「なぜ、うまくいったのか。なぜ、うまくいかなかったのか。次は何を変えるのか。」

この問いを大切にしながら、生徒の皆さんが自らの経験を学びに変え、成長へとつなげていく姿を、保護者・地域の皆様、そして教職員で支えていきたいと思います。それこそが、片柳中学校の目指す「夢をはぐくむ学校」の一つの姿です。